

CHITOSE CENTRAL ROTARY CLUB

PROMOTION of ECO-PROJECT, 2008-2009



発行 千歳セントラルロータリークラブ
 会長 井上英幸 / 副会長 今井章夫 / 幹事 武田伸也 / 会報編集責任者 武田伸也
 〒066-8520 北海道千歳市本町4丁目 ホテル日航千歳内 TEL・FAX.0123-26-5788
 オフィシャルホームページ <http://www.ccrcc.jp> E-mail. office@ccrc.jp

ゲスト・ビジターの紹介

千歳ライオンズクラブ
 会長 伊藤 常良 様
 幹事 鈴木 善一 様
 千歳中央ライオンズクラブ
 会長 坂口 雄二 様
 幹事 本村 宏文 様
 国際ソロプチミスト千歳
 伊藤良子 様
 社団法人千歳青年会議所
 理事長 高木 昌人 様
 専務理事 榊原 達也 様
 千歳ロータリークラブ
 会長 末広 孝 様
 副会長 本宮 輝久 様
 幹事 斉藤 博徳 様

会長挨拶

会長 井上 英幸

あけましておめでとうございます。
 2009年の初っ端の例会に、このように多数のご来賓の皆様をお迎えし開催できますことを高い席からではございますが改めて感謝申し上げます。
 ありがとうございます。
 100年に一度の経済危機といわれている昨今でございます。1890年世界恐慌が起きまして、そのときは相当の時間がかかり世界同時期の恐慌になったと聞いておりますが、その後1900年代の初頭、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、青年会議所と、時を同じくしてシカゴの町から「この不景気を如何にかせんといかん！」ということで立ち上がったと聞いております。未曾有の世界恐慌の折に我々のようなボランティアグループの活動の場があったのではないかと考えております。その後、恐慌が終わり東西冷戦の時代に入り、そしてそれが崩壊し、資本主義、ある意味アメリカ一国の勝ち、そのような時代がしばらく続いておりました。昨年暮れ、その一国主義、アメリカの資本主義が見事に崩壊してしまいました。100年に一度あるかどうかの同時危機が訪れてきている訳です。そのような時にこそ

例会出席状況 (2009年1月6日)

会員数	36名
会員出席者数	28名
欠席者数(内:無断欠席)	8(3)名
出席率(前回例会)	77.77(94.44)%
ゲスト・ビジター出席者数	10名
出席者数総計	38名

我々のようなボランティアの団体が活躍すべき時が来たと思っております。が、しかし我々ボランティアグループが誕生した100数年前とは若干環境が異なっているのだと年末、年始いろんなところで感じているところでございます。アメリカに追従して規制緩和し、アメリカの真似をして言いなりになってきたわが国の日本経済のあり方、政治のあり方、こういったことが「これでは如何だろう？」と見直されている時期なのではないでしょうか？ヨーロッパばかり、中国ばかり、全てアメリカひとつが「クシュン」とくしゃみをすれば、世界中に景気経済の不安定な状況が訪れてしまう。この状況を「果たしてこれで良いのか？」と考えられる年末から年始だったのではないのでしょうか？
 我々ロータリークラブ、基本的にはこの町、千歳のまちに居住し、千歳の町のため、人づくりのために組織としてあるのが多分ベターなのだと思います。アフリカの飢餓であるとか、東南アジアの恵まれない子供たちに支援したりだとかそういった部分もあるかとは思いますが、まずは地元、足元をしっかりと固めていくことが必要なのではないでしょうか。そういった意味でわがクラブは数年前CLPというクラブリーダーシッププランを導入し、クラブ内で、ある意味のクラブ内改革を行ってまいりました。ロータリーも100数年前の動きと、昨今の活動の中身は当然変わっていくべきだと思います。私の年度も半年を経ました。このあとの半年が非常に油っぽい、いつになく忙しい半年になるであります。また、その後高塚年度、坂井年度と続くわけではありますが、100数年前と同じことをやったの

ではロータリーはだめになってしまうでしょう。千歳ならではのロータリー活動あってしかり、北海道ならではのロータリー活動あってしかり、また、日本独特の活動があるべきではないかと模索しながら、高塚年度にしっかりと引き継いでいきたいと思えます。

皆様におかれましては、ご健勝のもと、セントラルロータリークラブに、ご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い致しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

幹事報告

幹事 武田 伸也

- 千歳ローターアクトクラブは千歳RCと恵庭RCの2クラブにより提唱されておりましたが、昨年の12月16日に千歳セントラルロータリークラブも加わり、一緒に共同提唱の調印式が執り行われました。
これからはいろんな部分で3クラブが共同して活発なローターアクトクラブとなるよう育てて参りたく思います。
- 市提案型の千歳市市民協働事業にわがクラブが申請しておりましたが、昨年末に千歳市より「実施団体として決定する」という通知が届きました。「千歳市が提案した事業を千歳セントラルロータリークラブがおやりなさい。経費は市で負担します。」という事業でございます。早速4月より事業計画に従い、実行委員会の主導の下に取り掛かります。

ニコニコBOX

ニコニコ箱 委員長 山本 啓子

千歳中央ライオンズクラブ様 新しい年もよろしくお祈りします

ソロプチミスト千歳様 新年交礼会にお呼びいただきありがとうございます

千歳ロータリークラブ様 いい年にしましょう!

スナックあらじん 今年もよろしくお祈りいたします。

千歳RC会長 末広孝様 これから乾杯の音頭をとらせていただきます。

千歳中央LC会長 坂口雄二様 昨年の創立記念には欠席になりお詫び申し上げます。

羽生有三会員 「ちゃんと」の新年号配布できました!!

須藤丈会員 本日の新年交礼会の余興に娘と息子が参加させていただき、また空手の弟子も参加させていただきました。ありがとう!

井上英幸会員 もうすぐ誕生日!

金山徹会員 入会して1年になります

大淵渉会員 今月誕生日です

坂井治会員 私も誕生日、58歳になります。

齊藤博司会員 私も27日で59歳になります。

和田次彦会員 誕生日でした。

佐々木俊英会員 還暦です。年男です。「うっしし…」

山本啓子会員 私も60歳、丑年です。

ご来賓挨拶

千歳ライオンズクラブ 会長 伊藤 常良 様

あけましておめでとうございます。昨年は「市制50周年を祝う市民の集い」を開催するに当たりまして、4クラブが力を合わせました。多くの会議を重ねて当日を迎えましたが、そのときにそれぞれのクラブを回る機会に恵まれました。あの会がもとで、それぞれクラブの特色、理念というか、おおもとは同じであっても、そのやり方、決め方、それをどう共有していくかということでの違いを感じさせて頂きました。セントラルクラブさんは私どもから見て「力」というか「まとまりが強いなあ」と痛感致します。若いという言葉では片付けられない良いエネルギー、大きな良いエネルギーを感じさせて頂き、若干「悔しいなあ」と思ったこともございます。そんな意味でまちの奉仕団体の方向を自ら提案し、行動していく。そんなクラブになって頂けたらと思えます。

私が会長を受けるにあたり、井上君もやれるんだから私もやれるかなあと思ったのですが…。(笑)さてどちらが先に自滅するかという感じでありましたが、何とか半年、ここまでやってきました。

後は自滅しないようにですね。

本日はお招き頂きまして本当にありがとうございました。

千歳中央ライオンズクラブ 会長 坂口 雄二 様

あけましておめでとうございます。昨年7月よりスローガンを「変革の時代に変わらぬ奉仕の心」として会長を務め半年が経ちました。ところが世界恐慌の昨今、思いやりの無い寂しい世の中になっているような気がしてなりません。そのような中、私たちは、子供たちに、特にスポーツ少年団とのかかわりを強く持っています。バドミントン、野球、柔道、剣道と4つのスポーツ団体の応援をさせて頂いております。スポーツをやっている子供たちが増えてきました。それを指導する先生方、近所のおじさん、おばさんたちも増えてきました。きっと千歳の奉仕団体のいろんな活動というのが認められてきたのではないのでしょうか?

今年も機会がありましたらセントラルさんと一緒に何か開催できたらいいなあと思っております。

よろしくお願い致します。

今日のプログラム

夜間例会「平成21年 新年交礼会」

■祝杯 千歳ロータリークラブ 会長 末広 孝 様
おめでとうございます。世界的には景気が良くないと盛んに言われておりますが、報道関係は何ごともし「良くない」「非常に悪い」と引き締めているところがあるように思います。日本という国は底力がありまして、今までも何回か恐慌という大変な時を乗り越えて来たわけですが、世界恐慌といって、炊き出しまでして、あのようによ遇している恐慌はありえないのではないのでしょうか。まだまだ日本には余力があるからできるのでしょうか。立ち直ることはできると思います。

何はともあれ新しい年が幕開け。今年はいいい年になりたいので、「良くない」という考えを捨て、逆境に立ち向かう勇気を持ってまいりましょう。ライオンズクラブ、ソロプチミスト、JC、そして我々ロータリークラブは、私たちはこれからも市民のための奉仕活動をしていきたいものです。

■スピーチ 千歳青年会議所 理事長 高木 昌人孝 様
JCがJCであるためには、我々ならではの人間力や組織力を、マチの発展にどう反映させるかにかかっていると思います。「明るい豊かなマチづくり」は60年来不変な我々の理念であります。マチの状況は常に変化しています。今のマチは何を求めているのか、そして今後どのような事が求められるのかを敏感に察知し、我々の“思い”をマチに反映させるのがJCです。今のマチに対し、過不足のない必要充分な社会開発が望まれます。

依然として叫ばれ続ける環境問題、益々エスカレートしている犯罪とそれに対する市民の反応の惰性的傾向、先の見えない不安定な景気、そして何よりも深刻なのは、市民の問題意識の低下・・・もはや「明るい豊かなマチづくり」はJCのみならず世間一般の普遍的なものであり、むしろ「この愛するマチをどう次代に繋げていくか」であります。この事は、先述した「組織を残す」のと同様に考えられます。「千歳JCを次代に繋げる」ためには、まずは会員拡大、そしてバランスのとれた進化と継承による魅力ある組織づくり、そしてソフト面の発展によるメンバー間の信頼関係にかかっていると述べました。それでは「マチを次代に繋げる」には何が必要でしょうか？魅力あるマチの創造には何が必要で

しょうか？

個人と組織が同等に尊重されるべきであります。同様に、個人が十分に尊重されながらも公共心に溢れる社会こそが、魅力あるマチの前提条件だと思います。強圧的に「公(国)」を最優先された戦前及び戦時中と、「個」の自由を最優先に迫られてきた戦後。どちらも永年的に持続可能な社会とは思えません。今後、人もモノも情報も飽和したこの未曾有の社会に対し、改めて「個と公」について考え、そのバランスの良い調和が望まれます。それには、「共に生きること」を意識した判断ができる道徳心と「自分は社会の一員である」という責任感と、「自分達で我がマチをつくる」というふるさと愛が必要です。

パソコンや携帯電話といったツールに恵まれた千歳JCと同様に、我がマチにも支笏湖をはじめとする豊かな自然や空港や幹線道路をはじめとする充実した交通網があります。そんな恵まれたハードに感謝しつつ、それに伴うソフトの発展が望まれます。この恵まれた環境を次代に繋げるためには、人を愛する、ふるさとを愛する、未来を愛する人づくりが必要です。



千歳市長 山口幸太郎 様



丑年「年男&年女」の会員